

# 三郷学フォーラム ～学習・研究 そして参加・協働～ 記録

日時：平成22年2月21日(日) 13:30～16:00

会場：三郷市文化会館大会議室

## 1. 開会

○木津市長；開会あいさつ(要旨)

### 三郷学フォーラム開催の趣旨

- ① 自治基本条例と総合計画の内容について市民の皆様にご報告する。
- ② 前期基本計画リーディングプロジェクトの1つである三郷学を幕開けする。

### 三郷学のねらい

- ① 市民の皆様が三郷市について自ら協力して学習・研究し、参加・協働していくため、“多分野”“多世代”の市民・市民活動をつなげる市民同士の交流の場を提供し、地域力の向上を図る。
- ② 市民の皆様が市政や三郷市の資源に対して理解を深めるとともに、市民間の交流を進めるような参加と協働のまちづくりを主体的に行う人材を醸成する。
- ③ 三郷学の取組みが市民の活動の裾野を広げ、市民と行政の連携により市民の夢が実現することをめざす。

○山下三郷市議会議長；開会のあいさつ(要旨)

### 三郷学の意義

- ・ 三郷市の歴史や地域、人々、伝統を背負って、自分の人生を生きていくということは、自分の人生に誇りが持てたり、自信が持てたりすることにつながる。



## 2. 学習・研究 そして参加・協働

○松島企画総務部長：三郷市自治基本条例と第4次三郷市総合計画の概要

### 三郷市自治基本条例

- ・ 三郷市のまちづくりを担う人、市民等、議会、行政が共に協力してまちづくりを進めるための一番大切な条例。

### 策定経過

- ・ 平成19年から検討を開始し、平成20年5月から具体的な条例制定作業に入った。これまでの市民参加は以下のとおり。
  - ・ 講演会
  - ・ 懇談会
  - ・ 市民ワークショップ
  - ・ パブリック・コメント手続
  - ・ 自治基本条例だより
  - ・ オープンコーナー

### 三郷市自治基本条例の特徴

- ・ 4つの特徴がある。
  - ・ 特徴1: 前文を読みやすく、覚えやすいものにした。
  - ・ 特徴2: 市民の皆様が市政にもっと参加しやすくなるための工夫がある。
  - ・ 特徴3: 多様な主体による協働が進むような規定を盛り込んだ。
  - ・ 特徴4: 条例の基本理念の普及を規定した。

### 第4次三郷市総合計画策定の背景

- ・ つくばエクスプレスの開業など大規模プロジェクトの進展と、少子高齢化、人口減少社会の到来などの社会環境の変化、行政事業の複雑・多様化、参加と協働のまちづくりの進展など。

### 策定経過

- ・ 平成21年12月議会にて、総合計画基本構想が議決された。前期基本計画は年度末にできあがる予定。これまでの市民参加は以下のとおり。
  - ・ キック・オフ フォーラム
  - ・ 市民ワークショップ

- ・ 市民意識調査
- ・ パブリック・コメント手続
- ・ ヒアリング調査
- ・ 市民フォーラム
- ・ まちづくり委員会

#### まちづくりの理念

- ・ 自立都市みさと、活力都市みさと、交流都市みさと。

#### 将来都市像

- ・ 「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」

#### 三郷学とは

- ・ 『三郷市にある人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化などの資源を学ぶとともに、三郷を取り巻く社会環境の変化を見据えながら、三郷の歩むべき方向性を常に考えた上で、実際に行動に移すための学。』

### 3. 三郷学への取組みに向けて

#### ○社会福祉協議会の事務局長 八塚様 : 地域福祉について



#### 地域福祉とは

- ・ 市民のだれもがその人らしく、住み慣れた地域でいきいきとして暮らすこと。

#### 地域福祉活動計画「みんなで ささえあい ともにつくろう地域の輪」

- ・ 近年、核家族化を背景に家庭の介護力や養育力が低下するとともに、地域のつながりが希薄化している。

#### 地域包括支援センター

- ・ 高齢者の相談、訪問事業、権利擁護、ケアマネジメント支援、介護予防ケアマネジメントを行う。地域のいろいろな方との連携を取りながら進めたい。

#### ○みさと環境ネットワーク 村岡様：身近なエコ活動について



##### みさと環境ネットワークの目的

- ・ 循環型低酸素社会をつくるため地球温暖化防止活動。

##### エコライフ DAY チェックシートについて

- ・ 地球温暖化による気温の急激な上昇は私たちの生存基盤を脅かす深刻な問題となっている。家庭からの排出抑制をめざしてこのチェックシートの推進を行っている。皆さんの心がけ一つで、CO2 25%削減というのはそう遠い夢ではない。

#### ○三郷市商工会 小柳様：サポート商品券事業「まごころみさと ちょこっと！ ねこの手」について



##### 「まごころみさと ちょこっと！ ねこの手」の概要

- ・ この事業は市内の小売店は大型店に負けないで頑張ってもらいたいという願いを込めて始めたもの。
- ・ お手伝いをお願いしたい人(利用登録会員)とお手伝いを一緒にやっていただける方(ボラ

ンティア)がおり、ボランティアのお礼として商品券が渡される。これを流通させている商品券事業。

- ・ 商品券は市内の200の登録店で商品またはサービス提供と交換できる。
- ・ 皆さんが使うとお店が潤って、税金が払えるようになり三郷市も潤う、と循環するようになっている。皆様と一緒にこの事業を大きく育てていきたい。

#### ○三郷市母子愛育会 清水様 : 愛育会の活動について



#### ボランティアによる活動

- ・ 自分の健康について、家族の健康について、地域の方の健康についてちょっと関心があったり、勉強したいという志のある方はどなたでもボランティアとして活動できる。

#### 主な活動内容

- ・ 近所の皆さんへの声掛け、独り暮らしのお年寄りの見守り、赤ちゃんの訪問や健診の手伝いなど。愛育会というボランティアがあることをお見知りおきいただきまして、温かく見守っていただきたい。

## ○三郷市青少年育成市民会議 伊地知様 :「親の学習」講座について



### 三郷市青少年育成市民会議とは

- ・ 市民総ぐるみによる青少年の健全な育成をめざす市民運動の中心母体として広く市民の理解と協力を得て、市内の青少年団体、青少年育成団体、青少年の健全育成を行う個人により設立された組織。

### 「親の学習」とは

- ・ 家庭の教育力の低下:すべての教育の基本である「家庭の教育力」を上げるため、「親の学習」講座を立ち上げた。ファシリテーターがリーダーとなって話し合いながら活動を進める参加型の学習。

### 参加者の意識の変化

- ・ 講座前は「あまり参加したくない」と答えている人も、講座後はほとんどの人が「また参加したい」と答える。自分の子育てに自信を持ったり、みんな悩みがあることに安心したり、子供に対する接し方に気づいたりしている。また、親同士のコミュニケーション不足も解消できた。
- ・ 家庭づくりから地域づくり、地域づくりからまちづくりへと広げ、やがて三郷市が一つの大家族になるように取り組んでいきたい。

## ○社団法人三郷青年会議所 稲葉様 : 三郷学への思い



### 青年会議所とは

- ・ 明るい豊かな社会の実現という大きな目的のために活動している 20 歳から 40 歳までの青年と呼ばれる団体。青少年育成事業、社会開発事業が主な活動。次世代を担うリーダーを育成する役割を担っている。明日の地域社会をつくっていくのは私たちの青年の義務であるというような気概を持つ。

### 三郷学への思い

- ・ 三郷学は、長い年月をかけて育まれてきた三郷独自の資源を再確認し、後世に伝承していくための取組みの一つである。第一歩は地域資源の掘り起こしが大切。当青年会議所は、三郷学を三郷市、そして皆様方との共同事業として取り組みたい。

## 4. 記念講演

### ●テーマ

- ・ 三郷学のすすめ

### ●講師紹介

- ・ 岡崎昌之先生
- ・ 法政大学現代福祉学部人間社会研究科教授。
- ・ 岡山市出身、早稲田大学をご卒業後、月刊『地域開発』編集長を経て、2001 年より法政大学の現職に就く。
- ・ 2006 年度には学部長に就任、地域経営論、地域ツーリズム論等を担当するとともに、北は北海道ニセコ町から南は沖縄県読谷村など日本全国各地のまちづくりや計画策定に参

画。

- ・ また、自治体学会代表運営委員、地域づくり団体全国協議会会長、総務省人材育成アドバイザーなど、まちづくりに関するご要職を数多く歴任。

#### ○講師 岡崎昌之先生 : 三郷学のすすめ



#### ●まちづくりは地域を知ることから

- ・ 三郷学では、永続的なまちづくりを目指していただきたい。
- ・ その人が生まれた地域、育った地域、学んだ地域というのは、人生にずっとついて回るもの。
- ・ 永遠に続く三郷、その三郷学を支える資源は何かという長期的な話だと思って三郷学を始めていただきたい。

#### ●将来の構想は地域の過去(歴史)に立脚して

- ・ 地域の価値、資源を三郷学を通じてもう一回掘り起こすためのヒントを挙げた。
- ・ 自然や気象関係:霧(大分県湯布院)、夕日(愛媛県双海町)、星(岡山県美星町)
- ・ 構築物:茅葺きの家(京都美山町)、21世紀美術館(金沢市)、牧場(北海道十勝)、路面電車
- ・ 物語:遠野物語(岩手県遠野市)
- ・ 三郷市に足りないのは林、樹木。
- ・ 地域の将来を考えるということは、その地域の個性あるいはその個性を育んだ歴史や文化に根づいている。地域というのは変わらない。だからこそ地域の地層に隠れた過去にきちんと



と立脚しないと、いくら華々しい構想を作っても絵に描いた餅におわる。

### ●水俣から始まった「地元学」

- ・ 水俣病で苦勞した水俣市では、まちづくりのために町の宝探し、資源探しをして「まちづくり資源地図」をつくった。それを集大成したのが「地元学」。現在では日本を代表する環境都市である。

### ●地域の相対化、地域技術の形成

- ・ もう一つ、地域の資源を発掘するためには地域を相対化すること。
- ・ 地域を少し離れて見ることで、地域を発見する、あるいは地域の資源を発掘する、まちづくりにつなげていくという重要な行為。
- ・ 地域の技術も大切。建築、食品加工、自然管理、農業土木、あるいは地域社会の風通しをよくする組織運営などの技術を大切にすること。

#### 事例・愛媛県内子町

- ・ 昭和 57 年に重伝建で町並み保存を文化庁から指定を受けた町。
- ・ 指定を受けるために町の人たちはグループを作り、全国の町並み保存を見て歩いた。（地域の相対化）
- ・ 観光客の目を通して新しい「石畳の宿」というものをグリーンツーリズムの拠点施設として展開。
- ・ 劇場「内子座」の保存。
- ・ 石畳地区「石畳の宿」の運営。
- ・ 木と緑による擁壁技術。森づくり。「コンクリートから人へ」の実践。
- ・ 三郷市も、懸命にいろいろなことを突き詰めて、過去にさかのぼり、その上で将来を構想すれば、こういうこともまちづくりに通じて構想していけるのではないか。